北海道博物館協会
学芸職員部会
ニュース

№.９１
２０１９（令和元）年６月７日発行

CONTENTS

01　平成 30 年度北海道博物館協会学芸職員部会総会・研修会の開催
06　学芸職員部会新入会員の紹介
08　北のミュージアム紀行８「中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館」

平成 30 年度北海道博物館協会
学芸職員部会総会・研修会の開催

2018(平成 30)年 9 月 28 日(金)・29 日(土)の両日、美幌町にて「平成 30 年度北海道博物館協会学芸職員部会」総会、研修会、エクスカーションを開催し、全道各地から 71 名の博物館関係者の参加がありました。

本研修会は、文部科学省の「博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業」の委託を受けた国立科学博物館と連携し、博物館活動で求められる基本的技術とそれに基づく応用力をつける契機とし、私たち学芸員が互いに学び合いながらスキルアップすることを目的に開催しました。

主　催　北海道博物館協会・国立科学博物館　主　管　北海道博物館協会学芸職員部会
後　援　網走管内博物館施設等連絡協議会・美幌博物館

第１日目 2019(平成 30)年 9 月 28 日

１．研修会
研修テーマ「資料の取り扱いと修復について」
会場：美幌町民会館３階中ホール

１日目は全体研修。美幌町民会館において、博物館資料の生物被害と文化財 IPM（Integrated Pest Management＝総合的有害生物管理）による生物被害防除方法を座学によって学習しました。

①座学１「剥製の取り扱い～主に鳥類標本を例として～」
講師　岩見　恭子氏（山階鳥類研究所）

鳥類標本を事例として、標本の受入から収蔵に至る過程における方法や問題点について講義していただきました。

仮剥製（学術標本）は簡便かつ研究が容易なよう製作されるが、その反面、脆弱なものや筋肉などの除去が不完全なものがみられ、カビは害虫を呼び寄せ、標本破損の要因となります。そのため、薬剤処理や洗浄などを施し、また学術的価値を損なわないために正確な情報ラベルを付ける必要があります。

標本保存の理想的な収蔵環境は、温度２０度、湿度４０％の一定した調温調湿下です。また、種や亜種などごとに分類されて取り出しやすい収納環境におき、定期的な点検で異常がないか見つけることも重要などをご教示いただきました。

②座学２「博物館資料の生物被害と文化財 IPM（総合的有害生物管理）について」
講師 佐藤　嘉則氏（東京文化財研究所）

IPM は、農業分野などで行われており、病害虫の発生状況に応じて、天敵（生物的防除）や粘着板（物理的防除）等の防除方法を適切に組み合わせ、環境への負荷を低減しつつ、病害虫の発生を抑制する防除方法です。

これまでは文化財害虫から資料を守るために、臭化メチルによるガス燻蒸や薬剤噴霧などを行ってきましたが、人体への影響や資料や絵画などの色の変質、オゾン層を破壊するおそれがあるとして、モントリオール議定書により製造と使用が制限され、使用が出来なくなりました。そのため予防を重視した生物被害防除を使い、博物館資料の保全を図ることになったわけです。（文責　斎藤和範）

佐藤　嘉則氏	岩見　恭子氏
生物被害を受けた資料	

２．総会

会場：美幌町民会館３階中ホール

はじめに、平成２９年度における各種事業報告、一般会計及び特別会計決算報告、会計検査報告が行われました。

次に、平成３０年度活動計画案及び会計予算案が事務局から説明されました。

平成３１年度研修会については白老町にて９月頃の開催が予定されています。学芸職員部会が平成２３年度から継続実施してきた「北海道博物館協会学芸職員部会・調査研究助成」は、応募者数の状況から休止することが提案・承認されました。その上で、当該予算を積み立て、隔年で外部講師を招聘し、高度かつ最新の技術を得る研修会を開催することになりました。

「北海道内博物館員データベース」は引き続き、情報掲載依頼を行い、本格的運用に移行します。

「部会ホームページコラムリレー」は道内博物館及び学芸員の活動を広く発信することを目的に継続していくことが確認されました。

「学芸職員部会ニュース」も年２回の予定で発行します。

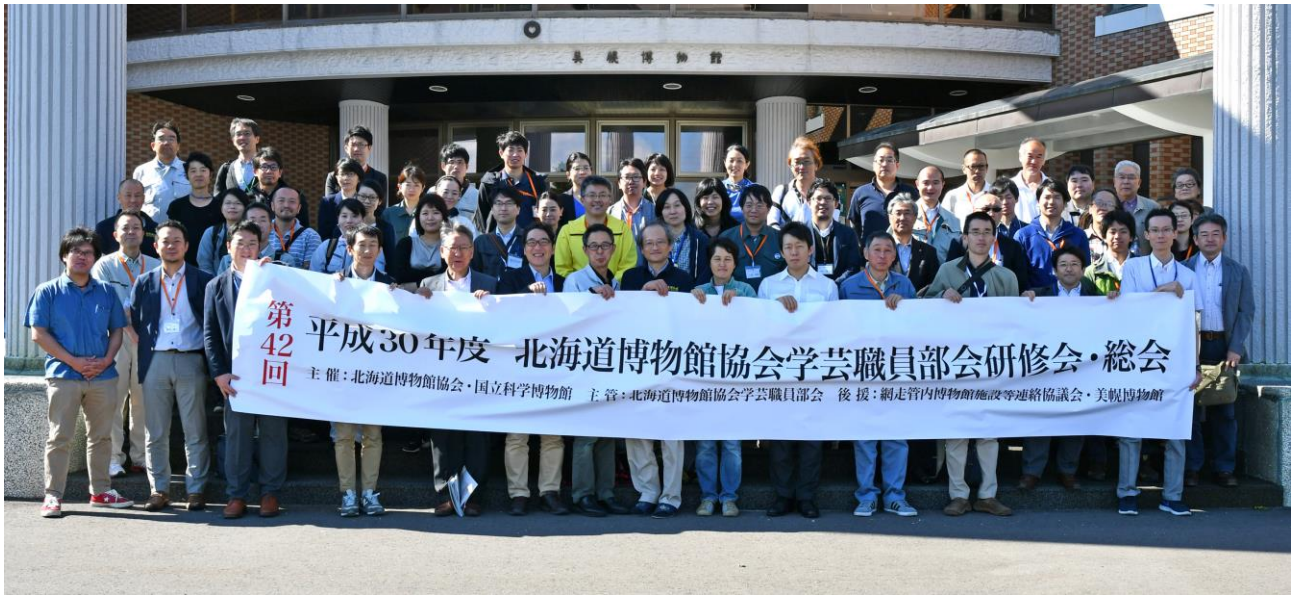
平成３０年度一般会計及び特別会計予算案が事務局から示され、承諾されました。

その他、平成２６年度実施の「国立アイヌ文化博物館（仮称）への意見・要望などについてのアンケート」結果、ならびに平成３０年に発生した台風２１号及び北海道胆振東部地震による文化施設の被災状況調査の報告が行われました。

３．情報交換会

会場：肉の割烹田村（網走郡美幌町大通北４)

情報交換会では、おいしい肉料理に舌鼓をうちながら、会員相互の交流をはじめ、新入会員の紹介などが行われ、大変盛り上がりました。また、２ 次会、３次会へと流れる面々も多かったようです。



第２日目 2019(平成 30)年９月２９日

実技研修

会場：美幌博物館

①剥製の修復と保存
講師　岩見　恭子氏（山階鳥類研究所）

受講者はテーブルに分かれて着席し、自己紹介と自館の標本資料の問題点などについて発表を行いました。

まず、作業を前にして資料に手を介してカビなどを持ち込まないために、アルコールで消毒洗浄します。その後、受講者は与えられた標本を実際に用いて、鳥類剥製の洗浄方法やカビの除去を行いました。

１８００年代の標本は、腹部を縫っていないものがあり、持つ際に注意が必要となるとのことです。

洗浄には「部分洗浄」と「全体洗浄」があり、本研修では前者を行いました。洗浄には段階があり、まずは水を用いてふやかして落とし、それでも落ちない汚れには台所用の中性洗剤を用いることがよいとのことでした（洗剤「ジョイ」を奨励）。洗剤は最終的にはすべて落としきらなければ新たな汚れの原因となるので注意が必要です。この洗剤残存の有無は指先で確認します。

ふき取りには布や雑巾を用いますが、タオルは羽にひっかかるのでソフトマイクロワイパーを使用します。汚れている羽にはピンセットや筆を用いる。

乾燥はドライヤーを使いました。「HOT」モードを続けると標本が痛むので、「COOL」モードと交互に用います。最初は微風で羽をけば立てながら乾かします。それに続いて、指でたたくようにけば立たせて根本まで乾かします。最後にピンセットで毛繕いをします。

包装は白い紙にセロハンテープでつけるが、つけっぱなしにする場合は中性紙を用いることを奨励されていました。

最後に、どこが汚れていてどのように洗浄したかについて作業記録をつけ、後世の学芸員にも残しておく必要があります。

標本ラベルは、標本の足にとりつける。これが取れてしまうと資料の価値が損なわれてしまうので、注意が必要です。（文責　伊藤大介）

自己紹介と各館標本の問題点の発表	岩見恭子氏による洗浄の例示
ドライヤーによる乾燥	

②文化財害虫の同定と殺虫実習
　講師 佐藤　嘉則氏（東京文化財研究所）

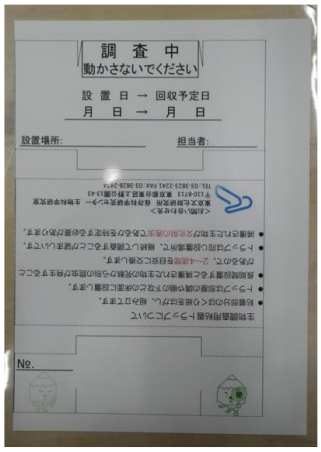
IPM 防除の手法の根本となる害虫の侵入経路調査に使用する、厚紙と市販の両面テープを使い組み立て式の「ゴキブリホイホイ」様の生物調査様粘着トラップを制作しました（写真１）。

さらにモニタリングの際、そこにかかる昆虫類などの特定を行う、同定の練習を行いました。実習では特に文化財を加害する重要な害虫 10 種の標本（写真２）を、肉眼や簡易実体顕微鏡を用いて観察を行い、文化財害虫事典（文化財研究所東京文化財研究所編　出版社クバプロ）で同定を行いました（写真３）。文化財害虫は非常に小さいのが多く、昆虫資料をあまり扱ったことのない人文系の学芸員には、少し悪戦苦闘していたようです。

さらにカビの発生状況を調べる分析機（Lumitester PD-30　KIKKOMAN 社製）（写真４）によって、身近にあるものの汚染物質の測定を行いました。綿棒によるふき取った資料を分析機に入れ検査を行います。この検査は汚染物質（＝ATP 量）を高感度に測定することが出来、30 秒で結果が得られます（写真５）。

しかし地方博物館・資料館の財政状況が悪化する中、分析機を買う余裕があるかどうか（希望納入価格約 10 万円）？そこが問題です。

今回の実習では、それぞれの館に戻ってからすぐにでも、館の中の害虫の出現状況をモニタリングする事ができ、非常に有益な実習となりました。早速、僕は教育大学の博物館資料保存論の講義で、実際に粘着トラップを作成させ、学生たちに大学の標本庫およびその周辺の調査を行わせましたよ。（文責　斎藤和範）



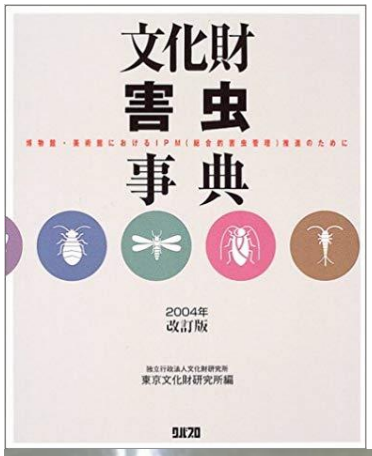


写真１	写真２
写真３	写真４

写真５

学芸職員部会新入会員の紹介

亀丸　由紀子さん
北海道博物館　学芸部道民サービスグループ・研究部アイヌ文化研究グループ

学芸職員部会のみなさま、はじめまして。北海道博物館の亀丸と申します。2018 年４月よりアイヌ民具担当の学芸員として北海道博物館に勤務しております。同時に、北海道大学の大学院に在籍しており、「博物館と先住民の関係」について研究しています。先日、美幌で開催された学芸職員部会では、学部時代に行ったアイヌの耳飾りの調査の際にお世話になった博物館の方々に、自分自身も学芸員としてお会いすることができ(まさかこんな風になれるとは思ってもいなかったので)、個人的にはかなりの感動を覚えておりました。

北海道北見市出身ですが、大学時代を青森県で過ごし、再び北海道に戻ってきました。そうして、改めて北海道を見直すと、これまでは気づかなかった北海道の面白さやユニークさに気付かされるような気がしています。まだまだ学芸員として歩き始めたばかりですが、「アイヌ民具」というモノを通して、北海道の歴史や文化の魅力を発信していければ、と思っております。目下のところは、耳飾りや首飾りなどの装身具を中心に調査を進めていこうと思っておりますので、「うちにはこんなに素敵なニンカリがあるよ」といった情報は大歓迎です。皆さんの博物館へ調査に参ります！今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

笹木　一義さん
国立アイヌ民族博物館設立準備室 研究員

せんだいメディアテーク（仙台市）、日本科学未来館（東京都）などで学芸員等を務め、2017 年 11 月より国立アイヌ民族博物館設立準備室に赴任。旭川市出身。学部時代は文化人類学を専攻。

専門は博物館学（来館者研究）。来館者と展示との関係性、来館者調査、来館者による展示体験、展示開発前後の展示評価などを研究。
せんだいメディアテークでは企画展示、活版印刷ワークショップ、新旧メディアを用いたワークショップなどを主に担当。日本科学未来館では、常設展示改修、企画展、巡回展、来館者を交えた実証実験、展示評価、アーカイブなどを担当。
現在は博物館準備室にて、2020 年４月の開館にむけて、特別展示、常設展示内の体験展示コーナー、教育普及、ライブラリ整備等の準備に従事中。

鈴木　明世さん
北海道博物館　学芸部道民サービスグループ・研究部博物館研究グループ

はじめまして。４月より北海道博物館で建築史担当として働いています。建築史ということで、隣接する「野外博物館 北海道開拓の村」にある復元建造物の保存活用に関する業務も担っております。東京のベッドタウン出身ですので、北海道の建築について実物を通して勉強する日々です。これまで関東を中心に、日本中の様々な古い住宅建築を見てきましたが、歴史的にも環境的にも特殊な条件の中で変化してきた北海道の建築は、寒冷積雪へのしつらえなど一風変わった面白さを持っています。北海道博物館での学芸活動の中で、道外出身ということを生かし、北海道の建築がいかに面白いか、といったことを一般の方々にも広めていきたいと思っています。
道内はまだまだ行けていないところが多いです。有名無名に関わらず、こんな面白い建築があるよ！というのを教えていただけると、喜んで足を運びます。これからどうぞよろしくお願いいたします。

鈴木　あすみさん
北海道博物館　学芸部博物館基盤グループ・研究部博物館研究グループ

３月に帯広畜産大学を修了し、４月より北海道博物館で学芸員として働いています。やや異色ですが、担当分野は博物館資料学です。これだけ聞くとどんなことをしているのかさっぱり伝わらないと思います。保存科学ですか？とよく聞かれるのですが、博物館情報学の方が近い気がしています。最近は、博物館資料の持つ情報でどんなことができそうか考えつつ、地理情報システム（GIS）やフォトグラメトリーという技術を使えないか試行錯誤中です。
大学では野生動物の骨格形態について研究していました。サークル活動では剥製や骨格標本を作り、学内外の方々と連携して標本を活用した普及（布教？）活動などにも取り組んできました。標本づくりを一緒にやってくれる方、大募集中です。
また、博物館資料に関する困りごとや研究アイデアがあればぜひ聞かせてください。博物館活動に尽力されてきた先輩方に少しでも追いつけるよう頑張りますので、今後ともどうぞよろしくお願いします。

中村　圭佑さん
士別市立博物館 学芸員

はじめまして。今年度から士別市立博物館に学芸員として新規採用されました、中村圭佑と申します。

出身は北の湘南と呼ばれている道南の伊達市で、大学で沖縄に行き、大学院で北海道に戻り、今年度から士別で学芸員になりました。

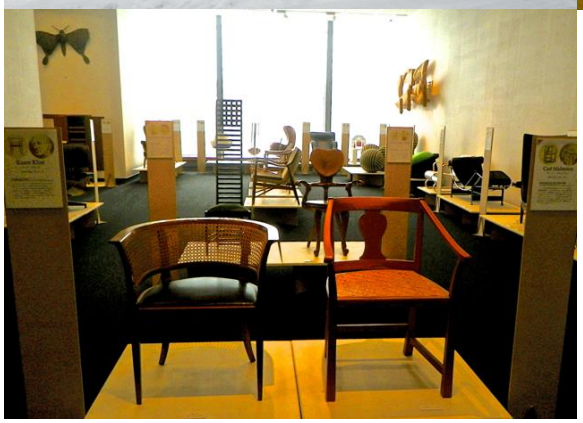
専門は日本近世史で、第二次幕領期といわれる幕末の蝦夷地はトカチをフィールドに、江戸幕府によって進められたアイヌの和風化について研究していました。

士別という町は、天塩川の上流部に位置し、明治 32 年（1899）に最北で最後の屯田兵が入ってきた町です。また松浦武四郎もこの士別に安政４年（1857）に探査に訪れ、シベツアイヌに関する記録を残しています。こうした北海道を代表するようなテーマが士別にはあり、とても魅力的な歴史を持つ地域です。

今後はこうした士別の歴史はもちろん、北海道の歴史などについても、博物館での講座や、展示などを通して多くの方たちに伝えていくことができればと思っています。

まだまだ至らぬところばかりですが、今後とも皆さまのご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

北のミュージアム紀行８「中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館」



中原悌二郎記念彫刻美術館（旧旭川偕行社）	美術館内部の意匠
旭川駅の彫刻美術館分館ステーションギャラリー	

第８弾となる北のミュージアム紀行は、平成 29 年 10 月８日にリニューアルオープン！した中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館（以下彫刻美術館）です。

彫刻美術館は旭川の発展に関わる重要な建物で、大日本帝国陸軍第七師団の旭川設置とともに、明治 35 年に建設された旧旭川偕行社です。設計は陸軍臨時建築部で施工は大倉土木組、当時流行りだったコロニアルスタイルの擬洋風建築様式で建てられています。偕行社というは大日本帝国陸軍の集会所や社交場で、将校等の会議、研修会、講演会、宴

会、結婚披露宴、宿泊、レクリエーション、天皇・皇太子の行幸の際の行在所にもなりました。

戦後は、GHQ 接収された後、昭和 24 年に旭川市に返還され、旭川藤女子高等学校、旭川実業高等学校などの仮校舎として利用されましたが傷みが激しくなり放置され、お化け屋敷のようになっていた時期もありました。しかし昭和 43 年当時旭川市長だった五十嵐広三が、当時北海道知事だった町村金五に掛け合い初期外観の復元修復工事が行われ、旭川市郷土資料館として開館し、平成 5 年まで使用されていました。平成 6 年から彫刻美術館に転用されています。現在国指定の重要文化財ともなっています。

中原悌二郎（なかはら ていじろう、1888 年 10 月 4 日 - 1921 年 1 月 7 日）というのは、日本の近代彫刻史に優れた業績を残した旭川ゆかりの彫刻家です。釧路町（現釧路市）生まれですが、小学校時代を旭川で過ごしています。その後北海道庁立札幌中学校（現・北海道札幌南高等学校）に進学し、そこで図画教師林竹治郎の影響を受け画家の道を目指し上京します。

東京では白馬会洋画研究所や太平洋画会研究所に所属し画家としての研鑽を積みますが、ロダンの画集に出会い感銘を受け、さらにフランスで直接ロダンに指導を受けた荻原守衛に出会い、彫刻家としての道を歩み始めます。

悌二郎は 32 年という短い生涯の中で 24 点の作品を残しましたが、現存しているものは 12 点で、そのすべてがここで鑑賞することが出来ます。二階の常設展示室では、悌二郎の代表作「若きカフカス人」のみならず全作品、悌二郎に大きな影響を与えたロダンや荻原守衛、悌二郎の親友たちの彫刻が所蔵展示されています。更に彫刻会の発展に寄与するために作られた悌二郎の名を冠した「中原悌二郎記念賞」が旭川市・旭川市教育委員会によって昭和 45 年から行われ、その受賞作品等、日本現代彫刻の流れが概観できる優れた作品が展示されています。また悌二郎の生涯がわかる中原悌二郎資料室や旧偕行社の資料を展示した偕行社資料室もあります。

一階には３つの企画展示室のほかミュージアムショップや喫茶、研修室があります。残念ながら行幸の時に使われた御在所など一部は見ることが出来ません。彫刻の見応えはもちろんですが、建物自体にも天井や窓枠などの意匠など様々な工夫が凝らされており、建物自体も見応えがあります。美術や彫刻に関心のある人だけでなく、歴史的建造物に興味がある人にも一見の価値があるので、ぜひ訪れてみてください。

旭川に来たけどそこまでは足を伸ばす時間がないという人のためには、旭川駅に分館の彫刻美術館ステーションギャラリーが設置されており、収蔵品展や旭川市ゆかりの彫刻家などの企画展などが開催されているので、こちらもどうぞ。(斎藤和範　記)

中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館（学芸員　齊藤眞理子）

開館時間　９：００～１７：００(入館は１６：３０まで)
休 館 日　毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は翌日)、年末年始
観 覧 料　一般 300 円／高大生 200 円／中学生以下無料
上記料金には常設展観覧料含む。各種減免規定あり。
所 在 地　旭川市春光５条７丁目
電　　話　0166-46-6277

同館公式ホームページ

次回総会について

次回の総会・研修会は白老町の白老コミュニティセンターにて、令和元年９月２５日（水）・26 日（木）を予定しています。

北海道博物館協会
学芸職員部会ニュース№.９１

発行日　2019(令和元)年５月２１日
編　集　齋藤和範（北海道教育大学旭川校）
　　伊藤大介（ニセコ町・有島記念館）
発行者　北海道博物館協会学芸職員部会
　　〒049-3106　北海道二海郡八雲町末広町 154 番地
　　八雲町郷土資料館・木彫り熊資料館内
　　TEL 0137-63-3131　FAX 0137-64-3848

北海道博物館協会　学芸職員部会ホームページ　学芸職員部会入会申込案内